

I-24

東日本大震災復興を契機とした、地域の固有性・多様性に応答した地域再生の試み
 ～宮城県石巻市雄勝町における、地域・大学連携による高台移転と復興住宅の計画～
 その2 震災復興住宅の提案

The trial of the local reproduction which answered the endemism and the diversity of the area beginning of the
 Great East Japan Earthquake revival

-The plan of the move to a higher elevation and revival residencies which made by the local government
 (Ogatsu Cho, Ishinomaki, Miyagi) and the association of some Universities - #2 The proposal of revival residence

○朝倉亮¹，佐藤太輝¹，平野悠哉¹，山中新太郎²，佐藤光彦²

*Ryo Asakura¹, Taiki Sato¹, Yuya Hirano¹, Shintaro Yamanaka², Mitsuhiro Sato²

1. 実測調査

平成 24 年 3 月 16 日～17 日、4 月 28 日～29 日の計 4 日間にわたって、日本大学・東北大学・東京芸術大学の教員学生、延べ 65 名による雄勝半島での建物実測調査が行われた。調査では住宅の間取り、断面構成のほか、住宅に付属する納屋や蔵、それらの配置、廃校となった小学校等の測量、及び現地ですら実際に暮らしている方々へのヒアリングが行われた。

1-1. 雄勝住宅の平面構成

雄勝地方の住宅は、fig.1-1 のような縁側に面した茶の間・おかみ・座敷からなる和室の連続空間を構成しているものが多く見られた。敷地形状に応じて、玄関側の三室一列となる場合もある。土間から変化を遂げた茶の間は玄関と直接つながり、雄勝特有の住宅内外の関係性が見て取れる。縁側は庭先での作業の他、漁具の保管や、着替え等、作業空間としても多用されている。

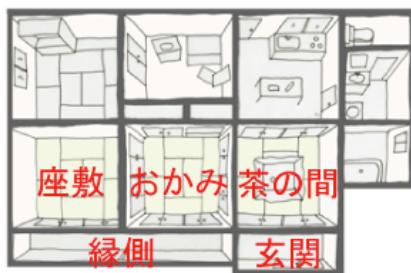


fig.1-1 伝統的な三間二列の住宅平面構成

1-2. 雄勝の断面構成

雄勝地方の住宅では前述の三室構成の中心に位置するおかみに、一間ないし二間にもわたる神棚が設置され、仏間も兼ねている。神棚を設置するために天高は 3000mm 程もあり、それらは外観のプロポーションにも影響を及ぼしている。その結果、軒は一般的な住宅よりも高い位置にあり、それらに寄棟ないし入母屋の屋根がかかる。囲炉裏の煙抜きを天窗として転用して

いる住宅も多く見られ、風が強い地域のために、屋根勾配は小さく抑えられることが多い。



fig.1-2-1 おかみにある神棚

fig.1-2-2 スレート葺きの屋根

1-3. 雄勝特有の素材

雄勝地方の住宅では地産の物を建材として積極的に取り入れている。集落の中で共同で製材を行うなど、住宅の外観の統一感だけでなく、人々の生活の中でも連帯感を持たせる要因の一つとして成り立っている。

その中でもより多く用いられているのが、杉材と玄昌石である。杉材は主に外装材として用いられ、玄昌石は屋根や外壁に葺くスレート材として用いられる。また、玄昌石製品を作成した際の端材も敷石や擁壁など、住宅外構部分のいたるところに用いられる。中でもスレート葺きの屋根が斜面にそって立ち並ぶ姿は、雄勝特有の美しい風景であるといえる。



fig.1-3 雄勝特有の素材(杉材・スレート・擁壁)

2. 復興住宅の計画

高台移転造成計画に先立ち、幾つかの面積規模と生活スタイルを持ち合わせた住宅を計画する。宅地面積は石巻市防災集団移転ガイドラインで示された前提条件である 100 坪に従い、小型の住宅で 70 坪、大型の住宅で 100 坪程度とする。

2-1. フレキシブルな和室住居 (一室×三室構成)

雄勝地方伝統の八畳間が三室連続した平面配置をした小型の住宅。水回りを近接させた新しい居間に、襖で仕切られた和室が一体となって連続し、住まい方に応じたフレキシブルな利用が可能。



fig.2-1-1 模型写真

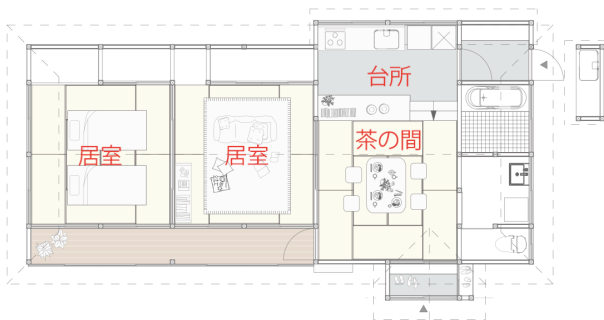


fig.2-1-2 平面図 1/200

2-2. 明るく独立性の高い住居 (二室×二室構成)

雄勝伝統の外観や、茶の間とそれぞれの諸室との関係性は残しながらも、全室板の間とし、個室に区切ることによってプライバシー性を高めた小型の住宅。2-1の住宅よりも小さな平面ながら、より多くの面を外部に開き、採光を得ている。



fig.2-2-1 模型写真



fig.2-2-2 平面図 1/200

2-3. 大きな吹き抜けを持った住居 (二室×三室構成)

雄勝伝統の三室×二室の平面構成を踏襲した大型の住宅。家族が増えることを考慮し、今から吹き抜けてつながる二階を持ち、それらには板張りの個室が配置されている。



fig.2-3-1 模型写真



fig.2-3-2 1階平面図 1/200

3. まとめ

雄勝伝統の素材や平面形構成を踏襲した3種類の復興住宅を計画し、雄勝でのこれまでの生活や、これから営んでいく新しい生活の基盤となれるような住宅の在り方についての検討を行った。それらがどの程度の面積規模になり、附属建物に対してどのような配置関係になるのかを明らかにすることで、それぞれの浜での高台移転計画での生活を考えていく上での一つの材料となるよう設計を行った。これらを住宅の基本形として、それぞれの浜ごとに高台移転に伴う造成と住宅配置、及び住宅の設計を行なってゆく。

参考文献

- [1] 小倉強：「東北の民家」，相模書房，1955.
- [2] 雄勝町/雄勝町史編集委員会編集：「雄勝町史」，雄勝町役場総務課，1966.
- [3] 小倉強：「宮城県の古建築」，宮城県文化財保護協会，1968.
- [4] 小野芳次郎：「東北地方の民家」，明玄書房，1971.
- [5] 草野和夫：「東北民家史研究」，中央公論美術出版，1991.